石見銀山遺跡ニュース

Newsletter of the Iwami-Ginzan Silver Mine Site　AUGUST 2005　NO.9

平成17年8月5日発行　第9号　　島根県・大田市・温泉津町・仁摩町教育委員会

【鉱山遺跡の顕著な普遍的価値と保存管理に関する専門家国際会議　メンバーとスタッフ】

>> Contents

page 2~6　鉱山遺跡に関する専門家国際会議開催　世界遺産登録推進室　足立克己
専門家国際会議現地視察　世界遺産登録推進室　足立克己
公開フォーラム　世界遺産登録推進室　林原幹治
7　推薦書作成と石見銀山遺跡・その2　世界遺産登録推進室　鳥谷芳雄
8　普及・啓発活動　シンポジウム“石見銀山遺跡…世界遺産として”の開催　広域行政組合　今田善寿
9　石見銀山協働会議(仮称)発足　大田市　竹下　健
10　整備事業から　町並みを歩く⑧ ～修理の現場から～
大森銀山 …… 大田市　三谷岳史
11　温泉津 …… 温泉津町　重田　聡
12　石見銀山遺跡調査活動日誌抄

鉱山遺跡に関する専門家国際会議開催

世界遺産登録推進室　足立　克己

▲国際会議参加者2005.6.1―6.4

▲ヘンリー・クリア氏（イコモス名誉会員）

▲スチュアート・B・スミス氏
（国際産業遺産保存委員会事務局長）

ヨーロッパや中南米には、ドイツのランメルスベルク銀鉱山やボリビアのポトシ銀鉱山など、世界遺産になっている金銀銅鉱山が10カ所ほどあります。東アジアにも主要な鉱山遺跡が複数存在していますが、これまで遺跡の価値に関する比較研究は進んでいませんでした。石見銀山遺跡も、16世紀にヨーロッパで作成された世界地図にも名前が記載された日本を代表する鉱山遺跡ですが、国際的な評価が定まっているとは言い難い状況です。

また最近では、世界遺産の推薦に当たり、推薦候補資産に類似した遺産との比較検討を行い、推薦候補資産の顕著な普遍的価値について証明することが強く求められるようになりました。そのため、鉱山遺跡についても、東アジアとヨーロッパ、あるいはその他の地域との比較研究が望まれています。

このような情勢から、石見銀山遺跡の世界遺産登録を推進するにあたっても、東アジアにおける鉱山遺跡の歴史的評価についてヨーロッパや中南米との比較検討を行い、広く鉱山遺跡の顕著な普遍的価値やその保存管理の在り方について国際的な共通認識を深めるとともに、石見銀山遺跡の顕著な普遍的価値を明らかにする必要性が生じ、文化庁・島根県等の主催により、島根県で専門家国際会議を開催することになりました。

会議は、大田市の島根県立男女共同参画センター「あすてらす」において、平成17年6月1日～4日の4日間にわたって「鉱山遺跡の顕著な普遍的価値と保存管理に関する専門家国際会議　～石見銀山遺跡を事例として～」というテーマで開催されました。

▲ヴィエラ・ドヴォジャーコヴァ氏
（スロヴァキア遺跡管理局長）

◀イネス・エレーラ・カナレス氏
（メキシコ国立人類学研究所
調査官）

会議には、海外から国際記念物遺跡会議（ICOMOS）、国際産業遺産保存委員会（TICCIH）などの国際専門家集団の代表者をはじめ、スロヴァキア、メキシコ、中国、日本からの専門家7名のほか、石見銀山遺跡調査整備委員会のメンバー３名、日本イコモス国内委員会から２名、地元県市から２名、文化庁から３名の、総勢17名の専門家が参加しました。会議は、初日の田中琢調査整備委員会委員長の「石見銀山遺跡とは？」という基調講演に始まり、2日目には現地視察、そのあと３日目の午前中にかけて、基調報告と各国並びに石見銀山遺跡の事例報告が行われました。

基調報告では、ICOMOS名誉会員のヘンリー・クリア氏（イギリス）から世界遺産条約における産業遺産の現状について、またTICCIH事務局長のスチュアート・スミス氏（イギリス）からは世界遺産へのTICCIHの取組みについて報告がありました。事例報告では、ヴィエラ・ドヴォジャーコヴァ氏（スロヴァキア）からバンスカ・シュテアヴニツアという世界遺産の鉱山町について、イネス・エレーラ・カナレス氏（メキシコ）からラテンアメリカの16～19世紀の鉱山技術について、また中国の郭旃（カクセン）（クォ・チャン）氏から中国国内の代表的な鉱山遺跡について、国内では井澤英二氏から日本の鉱山遺跡と石見銀山の特徴、大田由紀夫氏からは16・17世紀における銀と中国を中心としたアジア経済の動向についてそれぞれ報告を受けました。石見銀山遺跡の事例報告については、調査整備委員会委員の村上隆氏並びに藤岡大拙氏からそれぞれ科学調査と文献調査の成果について、日本イコモスの稲葉信子氏と西村幸夫氏からは石見銀山遺跡の伝統的建造物群と文化的景観について発表があったほか、世界遺産登録に向けた取組みの中から佐伯徳哉氏が石見銀山遺跡の顕著な普遍的価値について、大國晴雄氏が石見銀山遺跡の保存管理についてそれぞれ報告しました。

大國・佐伯両氏の報告を受けて、３日目午後からは、平成６年から始まった世界遺産の地域別・分野別格差の是正への取組み、産業革命以降の産業遺産を世界遺産に積極的に推薦していこうとしているTICCIHのここ数年の取組みや、平成16年にイコモスが世界遺産委員会に提出した世界遺産一覧表の中の格差に

◀郭旃
（クォ・チャン）氏
（中国国家文物局
文物保存司
世界遺産処長）

田中琢氏▶
（石見銀山遺跡調査
整備委員会委員長）

◀井澤英二氏
（九州大学名誉教授）

大田由紀夫氏▶
（鹿児島大学法文学部
助教授）

◀村上隆氏
（奈良文化財研究所
主任研究官）

◀藤岡大拙氏
（財団法人
島根県文化振興
財団理事長）

稲葉信子氏▶
（東京文化財研究所国際
文化財保存修復協力
センター情報研究室長）

◀西村幸夫氏
（東京大学大学院教授）

大國晴雄氏▶
（大田市石見銀山課長）

◀佐伯徳哉氏
（島根県教育庁
文化財課世界遺産
登録推進室主幹）

関する報告などの文脈を考慮しながら、鉱山遺跡の普遍的価値や保存管理について、積極的な討論が展開されました。

そして、会議の最後に参加者全員により、近代化以前の鉱山遺跡を含めた産業活動に関わる遺産に関する価値評価とその保存管理、および石見銀山遺跡の意義について結論がまとめられました。特に、石見銀山遺跡について以下の3点から世界遺産としての価値評価が可能であることが確認されました。

1. 16～17世紀初頭の「大航海時代」に、石見銀山の銀生産は東アジア及びヨーロッパの貿易国と日本との間における重要な商業的・文化的交流を生み出したこと
2. 日本の金属採掘と生産における技術的発展は、小規模な労働集約型小経営に基づく優れた運営形態の進化をもたらし、それが採掘から精錬に至る技術の全体を包括するまでに至ったこと。また、日本の江戸時代の鎖国が、ヨーロッパの産業革命によって発展した技術の導入を遅らせることとなったこと。ヨーロッパの技術の導入が、銀鉱石の枯渇と連動して、19世紀の後半における伝統的技術によるこの地域の鉱山活動を停止させ、結果的に豊富で良好な状態の下に考古学的遺跡を遺存させたこと。
3. 採掘から精錬に至る遺跡、街道、港湾施設など、石見銀山の価値を損じることなく遺存してきた銀鉱山経営に関わる豊富な痕跡の広い範囲が、再び山林の景観に覆われてしまっていること。その結果、「残存する景観（relict landscape）」が、人々が生活してきた集落の地域を含めて、顕著な価値を持つ歴史的土地利用の在り方を劇的に証明していること。

会議終了後、ヘンリー・クリア氏からはさらに、「石見銀山遺跡は完全で重要な遺跡である。世界遺産の強い候補であり、登録を目指す日本国政府の努力に同意し、支援する。」という発言もありました。

世界各国から専門家を招いて開催した今回の専門家国際会議で、参加者全員により、鉱山活動の総体が自然の中で良好に遺存している石見銀山遺跡への深い共通理解と、高い価値評価を得ることができたことは、2年後の平成19年登録を目指す地元にとって大きな弾みになるものです。今回のこの価値評価は早速、現在作成中の推薦書原案に盛り込まれることになります。そのほか、この会議によって、ヨーロッパや中南米、中国の研究者と、前近代の鉱山遺跡に関する新たなネットワークが生まれたことも大きな成果と言えます。

専門家国際会議現地視察

世界遺産登録推進室　足立　克己

「鉱山遺跡の顕著な普遍的価値と保存管理に関する専門家国際会議」の2日目に石見銀山遺跡の現地視察を行いました。石見銀山遺跡の三つの資産である、「銀鉱山跡と鉱山町」、「街道」、そして「港と港町」の主要な部分を約6時間かけて見ていただきました。

石見銀山遺跡の中核である銀鉱山跡では、鉱山の本体である仙ノ山の石銀藤田地区から本谷を下って、本間歩、釜屋間歩周辺岩盤加工遺構を見たのち、大久保間歩の坑道に入りました。本谷を見終えた海外の専門家からは、「300年近く鎖国状態にあったことで、日本の技術が独自の発展を遂げたことが窺える」、「鉱山技術の初源の形態が良好に保存されている」などの意見が相次ぎ、「重要で大変興味深い遺跡、世界遺産の強力な候補である」という評価を受けました。その一方で、仙ノ山へのアクセスや本谷を下る道が非常に足下が悪いことから、「多くの人が訪れるには不向きで、歩くのも困難な所がある。アクセス道などの整備が必要」とか、「考古学的な価値を一般市民にどのように示していくかが問題」などの課題の指摘もありました。また、眼前に拡がる岩盤加工遺構については、イギリスの鉱山にもよく似た遺構があるという教示を受けました。

大森銀山重伝建地区では代官所前から銀山公園まで歩き、途中で修復が進む重要文化財熊谷家住宅等を視察されました。午後には、近代に建設された清水谷製錬所の跡を訪れて斜面に残る石垣の遺構を見ていただいたあと温泉津町に移動し、銀山街道温泉津沖泊道を清水集落から「松山の道標」まで歩き、最後に沖泊集落を見ていただきました。街道の視察途中、専門家から何時作られた道か、街道の道幅に対してどこまで史跡指定されているか、どこまで緩衝地帯を考えているかなど、次々と質問が出ました。そして、石見銀山遺跡の構成資産として街道や港湾まで含めている点について、新しい視点であるとの評価が得られました。

▲石銀藤田地区にて

▲大久保間歩にて

▲本谷の本間歩の前にて

▲石見銀山街道　温泉津・沖泊道にて

公開フォーラム

世界遺産登録推進室　林原幹治

最終日には、会議中の発表や検討の内容を広く一般の方にお知らせするため、「石見銀山遺跡の普遍的価値について」をテーマとして、藤岡大拙氏にコーディネーターをお願いし、ヴィエラ・ドヴォジャーコヴァ、イネス・エレーラ・カナレス、郭旃の3氏及び大國石見銀山課長をパネラーとして公開フォーラムを開催しました。

会場のあすてらすホールは、地元の人など参加者240人で満員となり、同時通訳レシーバーを耳に熱心に聴講していました。

最初に大國課長から、石見銀山遺跡の概要について説明の後、3氏から各国の鉱山遺跡の状況などについて、画像等を使用して分かりやすく説明があったほか、次のような点について言及がありました。

▲発表風景

ヴィエラ・ドヴォジャーコヴァ氏

初めて石見銀山遺跡を見て、遺跡には脆弱な部分があり、今後多数の観光客が押し寄せると、きちんと保全できるのか気に掛かった。

バンスカ・シュティアヴニツァでは、1992年に推薦書を世界遺産委員会へ提出し、翌年承認されたが、こうした作業は、政府と地方自治体で行い、地元住民は関与しなかった。本来は、協議の過程に地元の人を巻き込んでいくべきであり、地元の協力によりその後の保存管理などがスムーズに行くものであるが、現地の人々の義務や果たすべき役割について説明しておかなかったのは、失敗であった。

現在、坑道跡など危険箇所は立入禁止にしているので、観光客に対しては、ガイドブックを作成・配布して世界遺産全体の情報が分かるようにしている。地元では、現在の観光客数に満足していない。また、平均滞在時間が、2、3時間程度なので、もう少し長時間滞在してもらえる方策を考えている。

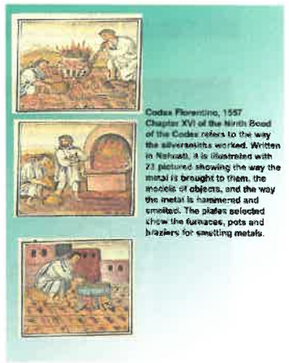
◀世界遺産バンスカ・シュティアヴニツァの町並

▲市章

イネス・エレーラ・カナレス氏

石見銀山遺跡が、世界的に見てユニークで特徴的な点は、自然と調和した鉱山経営が行われ、採掘終了後は自然に帰っていることと、鉱山技術の点でも様々な形で発展してきた様子が残っており、産業革命以前の技術を残す貴重な遺跡であることである。

ラテンアメリカの鉱山跡は、採掘や製錬活動に伴い周辺の自然が荒らされて、何もない荒野に採掘跡や建物が残っているケースが多い。また、新大陸発見以前は石見銀山と同じような技術が使われていたが、その後は300年に亘ってスペイン人が鉱山を支配し、集約的な経営を行ってきたため、それ以前の痕跡はほとんど残されていない。



▲メキシコにおける製錬風景（16世紀中）

郭旃氏

中国には、世界遺産が30箇所あるが、鉱山遺跡は一つもない。鉱山遺跡に対する認識が低く、なかなか文化財として調査や保護が必要であることが理解してもらえない。

世界遺産登録のためには、その遺跡の歴史的価値が明確であることと並んで、保存状態が良好であることが重要である。特に、鉱山遺跡の保存のためには、考古学的見地だけの遺跡保護ではなく、周辺に歴史的景観が保存され、鉱山の様子を偲ぶことができなくてはならない。

無形文化財的な、祭り、伝統、行事なども世界遺産の重要な要素になる。

推薦書作成と石見銀山遺跡・その2

世界遺産登録推進室　鳥谷芳雄

前回は推薦書の作成から提出までの流れや大まかな内容について書きました。その中で推薦書の原案は「推薦書作成専門委員会」の指導を仰ぎながら地元で作成していると紹介しました。今回はこの委員会に関係した2つの話題です。

委員会は、昨年3月23日から今年6月17日にかけて計6回開催しました。事務局の叩き台をもとに石見銀山遺跡の世界遺産としての価値や、その保存管理について議論して頂きました。個別の指導も含め、私たちにとってこの委員会は、世界遺産への理解を深める良い機会でありました。

ここで、印象的だった委員の方々の発言を幾つか取り上げてみます。「世界遺産は人類の多様な文化を肯定するためにある。」「とはいえいま世界遺産は地域間格差などがあって、アジアやアフリカは登録数が少ない。」「欧州の蓄積文化に比べると、アジアの循環文化の資産は価値が見えにくく、国際的な理解も十分でない。」「そうした中、石見銀山遺跡を欧米の同類のものと比較しながら、あるいは東アジアの中でどう価値評価し、強調するかが最大の課題である。」

「石見銀山をみると鉱山開発を停止して後、今日緑豊かな山林に復している。」「結果論的なところがあるにせよ、それは温暖湿潤な気候風土の下で環境負荷の少ない循環型の鉱山開発を持続したからである。」「石見銀山遺跡には、日本人が自然に対してとってきた調和的態度をみることができる。」

「かつての鉱山開発に関連した周辺では、いまも人々の生活や生業が営まれている。」「ここではこの地域に住む人々が遺跡を大切にしてきた歴史があり、これからも重要な役割を担うことになる。」「石見銀山では、遺跡と自然と人々の暮らしのほどよい関係がある。」「石見銀山の保存と整備活用は、このような遺跡と自然と人々が保っている均衡を崩さぬよう進められるべきである。」

さて、委員会に関係したもう一つの話題です。この委員会での議論を踏まえて導き出されたものに、推薦書作成のための3つのコンセプトがあります。

▲鞆ヶ浦

1　16世紀、石見銀山は、灰吹法技術と採掘から精錬に至る労働集約型の小経営集積によって、良質で大量の銀生産を達成した記念すべき鉱山である。この技術の国内諸鉱山への急速な伝播が、史上稀な日本国内における銀生産の隆盛をもたらし、その結果、東アジアの交易は、日本銀と中国の生糸との交易を軸に展開することになった。さらに、大航海時代と呼ばれたこの時期、金銀と香辛料を求め、自らの文明圏を超えて活動範囲を広げていたヨーロッパ人がこうした交易活動に参入し、アジアとヨーロッパとの文化の交流がもたらされた。このように、石見銀山は東アジアにおける経済の変革と、東西文化の交流を導いた鉱山と位置づけることができる。

2　石見銀山遺跡は、採掘から精錬まで行われた鉱山跡を中心に、これを軍事的に守った周囲の山城跡、銀や物資の輸送路である街道、銀を積み出した港湾、および銀の生産や搬出に関わった人々の集住した町並みなど、銀の生産から搬出に至る産業システムの総体がよく残る。このような産業遺跡が周囲の豊かな自然環境とともに一体の文化的景観を形成する事例は、世界的にも希有である。

3　石見銀山における銀の生産は、鉱脈を追って手作業で掘り進む採掘法、坑道に隣接して選鉱から精錬までの工程を一貫して行う手工業的生産、製錬にあっては管理された森林資源と供給の容易な鉱物資源の活用に特徴がある。日本の気候風土や文化に根ざしたこれらの生産方法が、自然環境の改変を最小限にとどめることになり、循環型の鉱山開発を持続させた。このように、石見銀山は環境負荷の少ない持続可能な鉱業生産方式を達成した、特筆すべき鉱山である。

石見銀山遺跡の価値は、この3点に凝縮されていると言えます。これを解説するための機会が別に必要かと思います。推薦書はいよいよこの9月に日本国からユネスコの世界遺産センターへ提出される運びです。私たちはすでに2年後のことに思いが及んでいますが、このコンセプトが極めて重要なものであるという認識に変わりありません。これからの調査研究や整備活用を進める上での羅針盤、あるいは命題として大切にする考えでいます。

シンポジウム “石見銀山遺跡・・・世界遺産として”の開催

広域行政組合
今田　善寿

平成17年２月11日（金･祝）、世界遺産登録に向け、その機運を盛り上げるためのシンポジウム「石見銀山遺跡・・・世界遺産として」を大田商工会館３階ホールにおいて開催し、圏域内外から約220人の参加者で会場は満席となりました。

シンポジウムは２部構成とし、第１部は、一昨年より開催している「ここまでわかった石見銀山」の続編として「世界遺産の全体像」、「発掘調査」、「文献調査」、「科学調査」、「世界遺産登録の推薦書」について報告・説明を行いました。午後からの第2部では、奈良文化財研究所主任研究官の村上隆氏と石見銀山調査整備委員会委員の勝部昭氏をコメンテーターとして迎え、石見銀山遺跡の将来像について、会場の方々と一緒に語り合いました。

第１部 は午前10時から12時まで行われ、発掘調査の関係では、昨年度から調査している本谷にある釜屋間歩周辺の岩盤遺構について報告がありました。この岩盤遺構は、高さ18m、岩盤の斜面がひな壇状の三段に加工されており、最上部には墓所のような遺構があり、最下部からそれぞれの加工段へつながる階段が丁寧に掘られています。岩盤には９cmや15cmほどの穴が数多く存在し、この大きさはちょうど尺寸に合うサイズになっていて、人力で彫った穴であることが分かるということでした。また、二段目の堆積層からは、江戸時代の初期の遺物が出土し、二段目の遺構の年代を確認できたとの報告がありました。

世界遺産登録の推薦書では、石見銀山遺跡の世界遺産登録を目指す上で、必要な手続きである推薦書の作成作業について説明がありました。推薦書の本文は二つの内容で構成されており、一つは推薦する資産が持つ世界遺産としての顕著で普遍的な価値を記した部分になります。これは、石見銀山遺跡が登録基準に照らして世界遺産として相応しい資産価値を備えているか等、また他の類似遺産との比較において類例がないか、もしくは極めて稀であるかということを証明しなければならないということです。もう一つはその資産が将来にわたってどのように保護されるのかを記した保存管理計画の部分からなります。石見銀山遺跡が世界人類のかけがえのない遺産として、将来にわたって保護が保証されており、具体的で実行性のある保存管理や整備活用計画が求められているということです。

第2部 は午後１時から広域行政組合管理者熊谷市長の挨拶の後、村上隆氏の基調講演を行い、行政側から保存管理計画と世界遺産登録に関わる整備計画（原案）が説明されました。その後、村上隆氏と勝部昭氏をコメンテーターとしてシンポジウムを開催しました。

事前に募集した石見銀山遺跡の将来像に関する質問や意見をもとに質疑応答形式でパネルディスカッションを行い、また会場からの質問に答えるという形で進んで行きました。

来場者からは「発掘現場を見学できるように」、「ガイドを今の無償ではなく有償にし、産業育成につなげていくように」など３時間にわたり様々な疑問、質問、意見が活発に交わされました。

終わり に村上、勝部両氏に今回のシンポジウムについてまとめていただきました。勝部氏は「行政の側からだけではなく、民間の側からも提案があり、良い石見銀山遺跡の保存管理計画・整備ができるのでないかと思います。」村上氏は「県そして日本に石見銀山遺跡を世界遺産にしなければならいと思ってもらうような形に発展させていくための工夫・アピールの仕方が全体を盛り上げていく上で大変大事になる。」とまとめていただき、午後4時ごろ終了しました。

石見銀山協働会議（仮称）発足

大田市　竹下　健

この度、島根県、大田市、温泉津町、仁摩町の主催による「石見銀山協働会議（仮称）」が発足しました。

この協働会議は、２年後に迫った石見銀山遺跡の世界遺産登録に向け、遺跡の保存・管理への取り組みはもちろんのこと、遺跡を活用し地域の活性化に繋げるため、地域最大の資源である「人財」を結集し、より多くの関係者が知恵と力を出し合い、なおかつ住民と行政が同じ目標に向かって“協働”し、これからの石見銀山のまちづくりを担う計画とそれを着実に実行する体制をつくることを目的としています。

県内を対象に会議員の公募を行ったところ、予想をはるかに上回る190名の応募がありました。

６月26日（日）大田商工会館において、会議員111名の参加により第１回全体会を開催し、西村幸夫氏（東京大学大学院教授）による「まちづくりの未来～遺跡・町並み・世界遺産～」と題した基調講演の後、「石見銀山のめざすべき姿～遺跡の保全と観光が共生できるまちづくり～」について11グループに分かれて討議を行い、各グループの討議結果を発表し、西村教授に講評をいただき終了しました。

また、翌週の７月３日（日）には、会議員107名の参加により第2回全体会を行い、10グループに分れ「石見銀山のめざすべき姿」の実現に向けた課題を抽出し、「保全」「受入」「活用」「発信」の4つの分科会へ振り分けました。

今後は、会議員も4つの分科会に分れ、課題の解決策についてそれぞれの分科会において検討を行い、来年の2月を目標に「行動計画」をまとめ上げる作業を行っていきます。

▲◀グループ討議

▲西村教授基調講演

▲全体会

西村教授 第1回全体会講評要旨

ー「石見銀山のめざすべき姿」に向けての3つの柱ー

①理解を深める
- わかりにくい石見銀山遺跡の価値を正しく知る
- 遺跡だけではなく地域全体を広く見直す
- 広く地域への理解を広げる

②案内を工夫する
- 情報発信の工夫（ガイダンス、ガイド、モデルコースなど）
- 人と人とのコミュニケートによる案内

③将来予想される変化に対応する
- 変化を監視する
- ルール（ガイドライン）をつくり、発信する

※協働会議のホームページを開設しました。
http://www.iwamigin.jp/ohda/kyoudoukaigi/

町並みを歩く 8

～修理の現場から～

大森銀山 …… 大田市　三谷岳史

荒田家主屋　明治中期以前（推定）

大森町昭和区。街道の西側に位置する町家で、町並みが「く」の字に曲がる位置にあり、扇状の敷地に建っています。建築年は、垂木が和釘で留めてあることから、明治中期以前と判断しました。かつては豆腐屋を営んでいましたが、現在は昭和区自治会館として活用されています。

主屋の背面で雨漏りがひどく、屋根替えを中心としながら正面は痕跡に基づく復原をおこないました。建具は１階、２階ともアルミサッシを撤去し、痕跡を基に雨戸を復原し、活用の面から障子の替わりにガラス戸をたてることにしました。

〈修 理 前〉

〈修 理 後〉

荒田家主屋

痕跡や聞き取り調査から、当初の出入り口は半間ほどの幅であったが、活用を考慮し４尺程度の幅とした。

河田家主屋　明治後期以降（推定）

大森町駒の足。街道の西側に位置する町家です。北隣は空地となっていることもあり、景観を構成する上で重要な建物のひとつです。

痕跡調査や小屋裏で見つかった板図から、間取りや出入り口の幅を変更するなど、大きな改造があったと推測されます。建築当初へ復原するには不明確な点が多いため、現況の間取りを基に修理を行い、外観は昭和40年代の写真を参考として整えました。

〈修 理 前〉

〈修 理 後〉

河田家主屋

街道に面したブロック塀を撤去し、犬走りをモルタルからタタキとするなど景観への配慮をしました。また、北側の下屋の波型鉄板屋根は瓦に変更しました。

温泉津 …… 温泉津町　重田　聡

温泉津の町並みは、平成16年７月６日、「港町」「温泉町」として国の重要伝統的建造物保存地区（以下、重伝建地区）に選定されました。全国の重伝建地区で唯一「温泉町」に分類されるこの地区は、かつてはほとんどの家に風呂はなく、皆外湯に入湯していたので、おかげで火事が少ない地域だったそうです。今でも保存地区内には風呂のない建物が残っており、また風呂のある家でも、夕方にはタオルをかかえて入湯に向かう姿が見受けられます。

二階部分の傷みはひどく、雨漏りにより大屋根の垂木、野地板は腐っており、梁も一部取り替えた。

修理前は、下屋は板金で葺いてあったが、聞き取りの結果戦前は赤瓦葺きであったことが確認され、大屋根と同様四色の赤瓦で混ぜ葺きを行なった。

選定後初となる保存修理事業は、保存地区の中ほどで主道に面して位置しており、ここ数年、町観光協会が借りて一階部分を休憩・展示スペースとして活用していた建物です。雨漏りや建物の歪みがひどく、また修理後は飲食店として活用したい旨の希望があり、修理することになりました。ちなみに明治中期に建てられたと推定されるこの建物にも風呂はありませんでした。

保存事業を実施するにあたり建築当初の姿、あるいは改造前の姿に近づけるようにします。この建物の痕跡を見てみると、一階に三室あったことがわかり、当初からあった三室を改修して土間にしたと考えました。しかしよく話を聞いてみると、終戦後新たに三室を設け、その後二室を土間にしたそうで、痕跡が戦後のものということになると、建築当初の様子を判断しかねるといったことがありました。

個々の建物には様々な歴史があるとともに、その頃の様子を覚えている人の存在が大切だということを認識させられました。

二階の和室の床にぽっかり空いた穴。以前使われていた掘りごたつの暖かい感触が伝わってくるようです。

石見銀山遺跡調査活動日誌抄

平成16年10月～平成17年6月

H16/10/1～2	県･広域行政組合）国土建設フェア石見銀山遺跡関係出展（於:広島グリーンアリーナ）
10/6	県）鉱区禁止地域指定に係る公害等調整委員会の公聴会（於:松江市）
10/7	県）鉱区禁止地域指定に係る公害等調整委員会の審問（於:松江市）
10/17～19	県）ユネスコ松浦事務局長来県･石見銀山遺跡視察
10/21	大森町民）第6回サイン計画ワークショップ（於:交流センター）
10/22	県市町）第17回合同会議（於:松江市）
10/27	県市町）保存管理関係合同会議（於:大田市）
10/28	大森町民）第7回サイン計画ワークショップ（於:交流センター）
11/2･3	市町）文化庁記念物課小野主任調査官現地指導（於:大森町･2港湾集落外）
11/8	県市町）第3回推薦書作成専門委員会（於:東京都）
11/9	県）文化財保護審議会
11/10	温泉津町）温泉津地区伝建審議会
11/10	温泉津町）町並み保存説明会（於:温泉津）
11/11	県市町）石見銀山遺跡調査整備委員現地視察（於:熊谷家･西田集落）
11/12	県市町）第5回石見銀山遺跡調査整備委員会（於:あすてらす）
11/12	市町）文化庁記念物課本中主任調査官現地指導（於:市町）
11/12	県市）科学調査部会（於:大森町、奈文研村上主任研究員）
11/13	広域行政組合）銀の道ウォーク2004（石見銀山街道鞆ケ浦ルート10km、280名参加）
11/14	市）熊谷家住宅修理現場一般公開（700人見学）
11/15･16	温泉津町）平澤麻衣子氏現地指導
11/16	市町）文化庁記念物課磯村主任調査官現地指導（於:市町）
11/16	市町）第9回史跡保存管理計画策定委員会（於:大田市）
11/16	県）文献調査団打合せ（於:松江市）
11/23	市）遺跡発掘調査現地説明会（於:本谷）
11/25	県市町）整備計画会議（於:大田市）
11/30	市）大森町地元説明会（於:交流センター）
12/2	大森町民）第8回サイン計画ワークショップ（於:交流センター）
12/13	県市町）第18回合同会議（於:大田市）
12/16～20	市）小泉和子氏熊谷家家財調査現地指導（於:水上収蔵庫）
12/20	県市町）拠点施設計画会議（於:出雲合庁）
12/28	県市町）拠点施設計画会議（於:大田市）
H17/1/7～9	市）熊谷家文書調査（於:市立図書館、島根大小林研究室）
1/11	石見銀山遺跡関係鉱区禁止地域指定告示（公害等調整委員会告示第1号 4,018.53ha）
1/17	県市町）世界遺産関係会議（於:大田市）
1/18	県市）拠点施設計画会議（於:大田市）
1/21	県）併任者会議･ワーキンググループ会議
1/21～23	広域）ふるさとフェア（広島グリーンアリーナ）
1/23	市）文化財防火デー放水訓練（於:交流センター前）
1/25	温泉津町）温泉津公共下水道事業調整協議会（於:温泉津町）
1/26	県市町協議（於:仁摩町）
1/27	県市町）拠点施設計画会議（於:出雲合庁）
1/28	県）第4回石見銀山遺跡関係次長会議
1/31	県市町）第19回合同会議（於:松江市）
1/31	市町）史跡石見銀山遺跡追加指定申請（銀山柵内の一部、羅漢寺五百羅漢、鞆ケ浦･沖泊集落）
2/4	県市町）第4回推薦書作成専門委員会（於:東京都）
2/9	市）大森町地元説明会（於:交流センター）
2/11	広域行政組合）シンポジウム「石見銀山遺跡･･･世界遺産として」（於:大田商工会館、100名参加）
2/14	中国地方整備局現地視察（於:市町）
2/17	大森町民）第9回サイン計画ワークショップ（於:交流センター）
2/20	県）銀山街道を歩く会（温泉津･沖泊）
2/23	市町）第10回史跡石見銀山遺跡保存管理計画策定委員会（於:大田市）
2/23	市町）第3回石見銀山景観保全審議会（於:大田市、景観保全地域の答申）
2/24	市町）文化庁磯村主任調査官現地指導（於:温泉津･大森町）
2/24	2町）平澤麻衣子氏港湾集落現地指導（於:鞆ケ浦･沖泊）
3/1･2	東京芸大／町並み聞き取り調査（於:温泉津･大森）
3/2	H16/7申請史跡石見銀山遺跡追加指定の官報告示（宮ノ前地区･2街道）
3/4	県）地域で活かす石見銀山遺跡支援プロジェクト事業調整会議
3/7	大森町民）第10回サイン計画ワークショップ（於:交流センター）
3/8	県市）東大院教授西村幸夫氏推薦書指導（於:東京都）
3/8～11	市）小泉和子氏熊谷家家財調査現地指導（於:水上収蔵庫）
3/9	市）第9回熊谷家活用検討委員会（於:大森町）
3/10	市）熊谷家活用フォーラム（於:交流センター、44名参加）
3/13	県）石見銀山地域づくりフォーラムin馬路
3/16	県）中国自然歩道現地調査（於:大森町～温泉津町）
3/19	県）石見銀山地域づくりフォーラムin西田
3/23	県市）史跡保存管理計画･伝建保存計画協議（於:文化庁）
3/23･24	2町）筑波大院教授斎藤英俊氏･平澤麻衣子氏2港湾集落現地指導（於:鞆ケ浦･沖泊）
4/1	市）石見銀山遺跡活用推進協議会の設置
4/4	県市）文化庁記念物課本中主任調査官協議（於:文化庁）
4/5	県市町）第5回推薦書作成専門委員会（於:東京都）
4/11	県市町）保存管理関係合同会議（於:出雲合庁）
4/12	市）大森町地元代表者説明会（於:交流センター）
4/13	市）文化庁記念物課･建造物課協議（於:文化庁）
4/14	大森町民）第11回サイン計画ワークショップ（於:交流センター）
4/14～15	市町）文化庁記念物課磯村主任調査官･平澤麻衣子氏現地指導
4/15	市町）第11回史跡保存管理計画策定委員会（於:大田市）
4/19	県市町）推薦書作成合同会議（於:出雲合庁）
4/21	大森町民）第2回サイン計画全体説明会（於:交流センター、50名）
4/22	県市町）推薦書作成合同会議（於:出雲合庁）
4/25	市）大森銀山地区伝建審議会（於:交流センター）
4/25･26	市）伝建審委員細見啓三氏大森銀山地区現地指導･保存計画改正指導
4/27	県市町）第1回石見銀山遺跡アクションプログラムプロジェクト会議（於:松江市）
4/28	温泉津町）西田地区地元説明会（於:ヨズクの里）
5/16	県市町）第2回石見銀山遺跡アクションプログラムプロジェクト会議（於:出雲合庁）
5/18	県市町）推薦書作成合同会議（於:出雲合庁）
5/20	史跡追加指定について国文化審議会が答申（H17.1申請分）
5/21	温泉津町）温泉津地区地元説明会（於:温泉津）
5/26･27	県市町）史跡保存管理計画協議（於:文化庁）
5/29	市）伝建審委員細見啓三氏大森銀山地区伝建保存計画改正･熊谷家保存修理指導
5/30	市）京都橘大教授牛川喜幸氏史跡保存管理計画指導
6/1～4	文化庁･県･市･町）石見銀山遺跡専門家国際会議（於:あすてらす･大森町･温泉津町･仁摩町）
6/4	文化庁･県）公開フォーラム･記者会見（於:あすてらす、240名参加）
6/6	県市町）第3回石見銀山遺跡アクションプログラムプロジェクト会議（於:松江市）
6/7･8	市）文化庁建造物課下間調査官熊谷家防災現地指導（於:熊谷家）
6/15	市町）第12回史跡保存管理計画策定委員会（於:大田市、計画書成案）
6/15.16	市町）文化庁記念物課磯村主任調査官･平澤麻衣子氏保存管理計画指導
6/16	県市）文化庁記念物課本中主任調査官指導（於:文化庁記念物課）
6/16～20	市）小泉和子氏熊谷家家財調査現地指導（於:水上収蔵庫）
6/17	県市町）第6回推薦書作成専門委員会（於:東京都）
6/18～19	県）石見銀山遺跡探索ツアー（於:大森町）
6/20	県市町）第4回石見銀山遺跡アクションプログラムプロジェクト会議（於:松江市）
6/26	県市町）石見銀山協働会議発足 第1回協働会議の開催･東大院教授西村幸夫氏基調講演（於:大田商工会館、127名参加）

石見銀山遺跡ニュース第9号　2005年8月5日発行　編集発行／島根県･大田市･温泉津町･仁摩町教育委員会 TEL0852-22-5642